

2023 年度 事業報告

[1] 福祉会の実施事業について

よさみ野福社会として、当該年度に行った事業の概要は以下の通りとなる。

- 1 障害福祉サービス 生活介護
- 2 障害福祉サービス 共同生活援助
- 3 障害福祉サービス 特定計画相談事業
- 4 障害福祉サービス 短期入所事業
- 5 実習・ボランティア等受入

[2] 生活介護事業について

1 実施場所(2か所)

よさみ野障害者作業所	(定員30)
第2よさみ野障害者作業所	(定員15)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	45 名	昨年(45)
(b) 利用者数	41 名	(42)

※ 利用者については、年度当初41名のまま増減はなかった

(c) 開所日数	254 日	昨年(254)
(d) 延利用者数	9717 人	(9681)
(e) 平均出席率	93.02 %	(90.75)
(f) 平均障害程度区分	5.23	(5.24)

※ 前期にくらべて利用者数で1名減少しているにもかかわらず、延べ利用者数および平均出席率は若干ながら上昇している。コロナ禍の影響の減少傾向にあることが徐々にではあるが数値となって表れているのではないかと推測される。

[3] 共同生活援助事業について

1 実施場所(2か所)

ぼむ	(定員5)
こりす	(定員4)
らんぷ	(定員4)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	13 名	昨年(13)
(b) 利用者数	13 名	(13)
(c) 開所日数	366 日	(365)
(d) 延利用者数	4177 人	(4113)
	(内 ぼむ	(1413)
	(内 こりす	(1451)
	(内 らんぷ	(1249)

(e)	平均利用率	87.79 %	(86.7)
	(内 ぼむ	79.56 %)	(77.42)
	(内 こりす	99.25 %)	(99.38)
	(内 らんぷ	86.61 %)	(85.55)
(f)	平均障害程度区分	5.06	(4.92)
	(内 ぼむ	5.38)	(4.99)
	(内 こりす	4.75)	(4.75)
	(内 らんぷ	5.04)	(5.04)

※共同生活援助での利用状況では、コロナ等に左右されたわけではなく、通常の利用実態を反映したものとなっています。

利用者の増減はなく、そのためかほぼ昨年同様の傾向を示しており、うるう年のために利用日数が1日多いことから延利用者数が増加しているものの、顕著な差はありません。

[4] 短期入所事業について

1 実施場所(1所)

らんぷ (定員4)

2 定員および利用実績について

(a)	定員	4名	昨年(4)
(b)	利用者数(名簿)	18名	(15)
(c)	開所日数	293日	(282)
(d)	延利用者数	1033人	(966)
(e)	平均利用人数(1日)	3.5人	(3.4)
(f)	平均障害程度区分	5.05	(5.3)

※短期入所においては、あらたな利用申し込みを受け入れる形で利用者数、延べ利用者数ともに上昇しています。また、不足しがちな職員の新規雇用や支援体制を整えたこともまた総体としての利用の増加につながったものと思われます。

[5] 特定計画相談事業について

1 実施場所 よさみ野障害者作業所

2 利用実績

(a)	利用者数(名簿)	40名	昨年(41)
(b)	開所日数	254日	(254)
(c)	延利用者数	210名	(227)
	※利用支援あるいは継続支援の利用のあった回数			
	(内 利用支援	37)	(35)
	(内 継続支援	177)	(197)
(d)	加算算定数	438回	(436)

※年度内での利用者名簿(総数)では、当初35名から4名追加後1名の契約解除があり、年度内の最大人数は39名、年度末の名簿人数は38名となった。利用および継続支援を中心としながら、関係事業所や医療機関との連携を強め、各種加算の算定をも積極的に行っている。

[6] 行事等の開催あるいは参加について

1 行事への参加

12月9日 合同クリスマス会 一昨年(12月10日)
 11月1日 日帰りバス旅行1
 11月8日 日帰りバス旅行2

2 販売(授産)

(a) 区役所販売(毎月 第1・3月曜日) 実施回数 21 回
 (b) なごみ(毎週木曜日) 実施回数 35 回
 (c) 他 10月28日 住吉区民まつり

[7] 実習・ボランティア等受入

1 介護体験実習等(大学生・介護・教職課程)

実習参加者 1名 昨年(3)
 延べ実習日数 3日 (3)

2 利用体験実習

実習参加者 3名 昨年(2)
 延べ実習日数 6日 (3)

[8] 職員関係

1 雇用職員

管理者・サービス管理責任者 4名
 (相談支援専門員1名含む)

(生活介護)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	19名	7	12
調理員	1名		1
医師	1名		1
看護師	1名		1

(共同生活援助)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	10名	1	9
世話人	4名	1	3

(短期入所)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	3名	1	2

2 実施職員研修

年間研修回数 11回
 延参加人数 14名
 (新人研修関係 4回 1名)
 (人権研修関係 2回 4名)
 (支援研修関係 3回 3名)
 (実務研修関係 7回 2名)
 (運営研修関係 6回 2名)
 (地域福祉研修関係 4回 2名)
 (サビ管／更新関係 6回 2名)

[9] その他、年度を通して

基幹事業である生活介護、グループホームについては利用者の変動もなく、コロナ禍の影響が薄まる中で安定した回復傾向を見せています。一方で相談支援事業については利用者も増え、地域におけるニーズに対応していくべく少しずつですが活動を広げています。その傍らで短期入所の利用者も増えてきています。

ただ、そういった広がりつつあるニーズに対応すべき体制の確保、主に専門的知識と経験が求められる直接処遇にかかわる職員の確保は長らく当法人の抱える課題であり、継続した求人活動の結果2024年度に向けて新卒2名を含む3名の正規職員の雇用することになりました。一方で年度内にて2名の非常勤職員の離職等があり、まだまだ職員体制について充分といえる状況には至っていないのが実情です。

一方でコロナ禍の影響が薄まる中で地域でのイベントなど、以前の取り組みを再開していこうという流れがあり、よさみ野としても積極的に参加を果たしていくとともに自施設内でも数年ぶりに日帰りバス旅行を実施し、休止していた区役所やなごみでの自主製品販売も再開することになりました。

コロナ禍の収束とともに社会に活気が生まれるというイメージがある中で障害者福祉の分野では早々と報酬改定がアナウンスされ、一般でもインボイスや定額減税など、事務にかかる負担が激増しており、支援体制とともに事業体としての運営体制についても新たな展開が求められています。